

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690200106		
法人名	(医)三幸会		
事業所名	ケアサポートセンター千本今出川(GH)		
所在地	京都市上京区元誓願寺東入ル元四丁目424番地の2		
自己評価作成日	平成25年2月10日	評価結果市町村受理日	平成25年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1「ひと・まち交流館京都」1F		
訪問調査日	平成25年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の自立支援に向けた活動。小規模・GH併設事業所として、地域にねざした活動支援が行えるように、地元との交流(社協・児童館・保育園等)も早期に行え、大変にぎやかな雰囲気となっている。小規模・GH合同の 運営推進会議を実施するなかで、それぞれのご家族の交流の場となっている。また、自宅でない別の住まいとしてのGHにおいて、GH家族会を3か月ごとに行い、住まいの場となっているGHの、家族との関係が常に強く結ばれているようにも取り組んでいる。目標として、「京都1の事業所になる事」をかかげています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ケアサポートセンター千本今出川(ホームと略す)は京都西陣の住宅密集地にあり、周辺の景観に溶け込んだ新築2階建。当地域は高齢化に加え住民移動も少ない。ホームは開所以来9名で顔触れも変わらず、既に大きな家族のような雰囲気が出来ている。パンフレットからは「一日一笑・一喜一憂・一期一会」が目に入る。利用者本位、地域・家族との共生という思いが込められていると伺った。利用者は洗濯干し、料理作り、来客対応にスタッフと共に自然体で取り組んでいる。家族の来訪も多く、家族会の出席率も100%に近い。介護力こそ利用者の笑顔に繋がると管理者は職員育成に力を入れ、研修の充実、的確な記録、全職員に周知を図る情報伝達体制の構築に力を注いで来られ、個別ケア記録からは職員の努力や工夫が窺える。利用者は70代~90代、現段階の介護度は中等度、表情も明るく活気もある。開所当初に出会った利用者、職員で事業をスタートして6ヵ月、この間の管理者・スタッフの並々ならぬ努力が実践から実感できた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の基本理念として、笑顔あふれる中、心に寄り添いながら、その方の現在を大切にケアしていく事をあげ、笑顔あふれる日々となっている。	理念は、新しく発足する事業に向けた職員の思いを凝縮し職員総意で決めた。当地とのご縁を大切に「一期一会」、「一日一笑」、「一喜一優」といった言葉もパンフレットに載せ思いを伝えている。理念は事業計画・介護計画の実践から把握できる。	発行予定の広報誌に、ホームの理念と実践例、素顔の生活などを掲載し、地域に向け事業活動紹介をし活動の理解に活かされることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年度途中の開所時より、地区社協の行事参加や、児童館との交流が行っている。食材も地元のスーパー(元公設市場)が、全面的にご協力頂いている。地域の開業医様も複数かかりつけ医をお願いしており、とても安心できている。	開設早々に近隣の児童施設との交流ができ、地域関係者とのつきあい、ボランティアの来訪等、短期間に着々と関係が築かれている。今後、学校との交流を視野に、取り組みを予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開所前より、地域向けに(医)三幸会・医師による認知症勉強会を開催。出来るだけ多くのご利用者を、散歩や買い物等で、地元		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開所時より、ご家族様等多くの方に参加頂いている。本人・家族の思いを聞き、日々のケアや行事、家族会等につなぐことができています。	会議メンバーは利用者や家族、学区社協会長、包括支援センター職員である。メンバーからは運営面へのアドバイスや地元消防団、関係団体の紹介を受け事業に繋げている。議事録は家族、関係者、関係機関に届けている。	すでに防災関係、福祉施設、町内会、女性会との関係も出来つつある。地域の支援・協働体制の強化に繋がり、事業の発展に活かされることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	上京区会議保険事業者連絡会に参加し、介護保険行政担当との連携を行なっている。また、通所系事業独自の「ささえあいの会」があり、より強い協力体制の中に参加でき、先駆事業所からのサポートを頂いている。	区役所には情報提供や相談・問い合わせなど、気軽に訪ねている。行政主催の会議や、地域の関係機関との連絡会、研修会等には積極的に参加し、交流や連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として、身体拘束防止マニュアルを作成。職員全員に開示。事業所として、年1回ペースで、研修実施。外部研修にも参加し、事業所での伝達研修にも努めている。実施無し。	マニュアルを職員に示し、職員は内部研修や法人研修を受講し伝達研修により情報を共有している。特に言葉に関する拘束には、気が付けば随時注意し、職員会議で周知を図り、会議録にも記録を残している。	
		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所として、年1回ペースで、研修実施。外部研修にも参加し、事業所での伝達研修にも努めている。実施無し。		

京都府 グループホーム ケアサポートセンター千本今出川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・成年後見とも、事業所として、管理者による研修実施。小規模で、両制度の申請を行なっている方もおられ、事例検討としている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、十分な時間をかけている。不明点等ないかを確認し、安心して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本年度より、小規模・GH事業で、満足度アンケートを実施。アンケート結果を、すぐ改善点として取り組んでいる。	家族の面会が平均週1回と多く、家族会も3ヶ月1回設け全員に近い参加があり、意見交換の機会は多い。また法人本部で満足度調査が実施されており報告書が届いている。家族から寄せられる苦情、要望は内容を検討し、家族と話し合い改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所として、職員面接を実施。改善等にかかしている。上記アンケートは職員用もあり、PC増設等が改善できた。経営者サイドの方は、常に話を聞いて頂ける状況であり、管理者として、尊敬・信頼させて頂いている。	職員会議は月1回開催され、会議記録は事業所の公式情報と位置づけ職員全員に配布し、周知徹底を図っている。各職員から日常的に出てくる意見や、提案は主任が窓口になり聞き、内容を整理し職員会議に諮っている。内容によっては管理者が法人本部に相談し、物品購入等の改善につなげる努力もされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給料・賞与等、良い待遇を維持して頂いている。処遇改善の費用等、非常勤の方にも公平である。ケアマネ等の資格手当も、高水準。時間外手当なども、必要な金額は全支給される。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームヘルパー2級養成校を開催し、法人職員は低額で利用でき、キャリア育成を実施。介護福祉士・ケアマネ取得等にも手厚い支援あり。ケアサポート事業として、研修担当を決め、法人内外の研修参加・実施を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各行政区での、事業者連絡会をはじめ、医師会、GH協議会等の参加をすすめ、事業所等での、伝達研修等にかかしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	通常、初期情報把握後の面接が多く、思いや維持されている能力等の把握に努め、傾聴本位での面接を行なっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人への意向確認等と並行し、家族の意向確認作業も実施。家族の本人への思い、家族状況等理解し、事業所として対応していける事等を具体的に提案していく事を実施。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GHのご利用を希望される方は、家族も認知症をかかえた親を、ご自宅では無理があっても、手厚い暖かいケアを望まれている。GHとして、大きな家族として、認知症ケア等必要なサービス提供を提案し、実施していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事から、調理・作業等への参加を行なって頂き、共に暮らしを支えて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所職員が、大きな意味での家族として存在し、本来のご家族と、ご本人への支援について、出来るだけ多くの共有を心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・自宅関係者とのつながりが途切れないよう、家族や知人の事業所への面会・訪問をお願いしている。事業所でいっしょにお食事して頂いたり、馴染みのお店に外出支援することも実施中。	家族や親せき、知人の面会が多いのも当事業所の特徴である。家族や知人と共にホームで過ごし、時には食事を勧め、寛いで過ごされるよう職員は気配りをしている。外に出ると西陣の風景、お寺など馴染みの場も多く、一緒に外出されることも多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	開所時より、女性9名がご入居。他者への気遣い等も大変多く見られ、大変仲が良いです。体調崩されご入院された方にも、「元気になったらいつ戻らばはる。」と家族のような対応をして頂き、GHとして有難い事です。		

京都府 グループホーム ケアサポートセンター千本今出川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	前事業所でも、利用終了の関係者より、ご利用者の紹介、多くの相談等受けている。現在、終了者はおられないが、終了後も随時相談等がある事業所構築に努めたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前の情報収集・面接時より、家族・居宅ケアマネ・包括・行政機関等より、希望・意向・生活史や嗜好の把握を時間をかけ行なっている。事業所でのアセスメントを十分にいき、必要なケア提供としている。	利用者・家族からは思いや意向・生活背景など丁寧に聞き取り、家族や利用者との信頼関係の手掛かりにも活かしている。アセスメントは関係機関の情報も取り込み、法人共通の様式を使うと共に、センター方式を一部使用し(家族にも記入を求めている)、情報は職員間で共有している。基本情報、アセスメント情報はきめ細かく記されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	同上。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	同上。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント(初期MDS・センター方式)を十分にいき、必要なケア提供を行えるよう、介護計画を作成。ケアプラン内容のチェック表を日々活用し、確認をし、介護計画の実施状況等の記録を行なえるようにしている。	介護計画は計画作成担当者が作成しケースカンファレンスに提示。課題は身体・生活・趣味・興味など幅広くとらえている。日々ケアは介護計画の課題を踏まえ、取組み支援記録に記録している。、日々確認用として、「介護計画課題チェック表」が設けられている。モニタリング・介護計画の見直しは3ヶ月単位で行っている。担当制を敷き、家族との関係づくりにも配慮し、得た情報は会議で提供・共有しケアに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り時等に、ミニカンファを行い、ケア内容等討議を行なっている。職員会議でも、小規模・GHとものカンファレンスを行い、より多くの意見を取り入れ、介護計画に活かすようしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所として、常時可能な事、少し工夫すれば可能な事、関係機関とも連携し、多くの調整を行う事で可能な事、事業として対応不可能な事とあり、出来るだけ対応できるような、事業としてのスタンス、対応の検討を行なっている。		

京都府 グループホーム ケアサポートセンター千本今出川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	GHが自宅でない別の住まいになる事で、家族・医療機関・行政機関等との連携をこころがけ、体調良く、散歩・買い物・外食や、可能な余暇等が行えるよう日々努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	GH9名、4医療機関の往診をうけている。緊急時の受診は、事業所に対応している。かかりつけ医との、事業所利用時のバイタル状況等情報提供等も行い、異常の早期発見となるよう連携実施。	かかりつけ医は契約時に確認・相談し決めている。現在2週に1回程度4名のかかりつけ医の往診をホームで受けている。真夜中に体調急変し、かかりつけ医に相談、往診に駆けつけてもらったこともある。精神疾患が伴う場合は法人の医療機関に相談し調整している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平成24年12月より、堀川病院訪問看護STとの医療連携を行い、サポート頂いている。小規模にも非常勤で看護師がおり、必要に応じて、GHへの看護も行なってくれており、医師への調整等、お願いをしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に至るまで、多くはかかりつけ医の受診・往診をお願いし、病院への入院調整をお願いしている。緊急時は、協力医療機関等をお願いする予定。医師や訪問看護師等、入院から入院中、退院に向けての関係調整を継続する事で、利用者が安心出来るように連携を心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として、重度化や終末期に向けた方針を作成し、小規模・GHとも行っていく予定。連携をして頂ける医療機関との話し合い等も、随時実施していく予定。現在、対応必要なケースはない。	当ホームの重要事項説明書には方針が記載され、医療連携加算の家族了解も得ている。地域の医療機関との関係も出来てきており、対応してゆく方向で動めてきている。一方、法人として「重度化や終末期対応方針」が目下検討中であり、方向を見極め対処を考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所として、必要な救命講習等実施。法人での講習・研修も実施。小規模・GH全事業所に、AEDを設置、早期の救命対応が行えるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所として、年2回防火非難訓練実施を予定。今回、開所前に行い、より高い意識で勤務しています。広域避難場所等は近隣にある。地域消防団との連携は、今後調整を予定。	開設直前に防災に関する学習・訓練をしている。2回目は地域消防分団、消防署立会いのもと訓練(夜間想定含む)を実施。備蓄は水他食糧3日分、毛布等確保している。広域避難場所は利用者の足で10分程度の中学校が指定されている。現地には利用者と共に出向いている。自然災害関連の取組はない。	地震についてマニュアルは作成されているが、法人として方針が出ていないため訓練は行ってない。自然災害対策も含め、普段からの心がまえ、並びに地域との協働は重要であり、今後とも近隣への粘り強い協力関係づくりを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者ケアの本質に、人権と人生の大先輩に対する敬意を持つよう、常に心がけ指導している。暖かいコミュニケーションにも、馴れ合い的な話しかけ等無く、常に礼節を心がけた心を大切にしたい。	身体拘束・虐待・権利擁護について、管理者自ら職員に研修を実施し、利用者に向う意識の喚起を促している。ケアの面では利用者本位の姿勢をプランに反映させようと取り組んでいる。トイレ介助の際の声かけ、幼児言葉等の言葉遣い等、気づけば職員会議で取り上げ指摘し、指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	事業として、希望・意向・生活史や嗜好の把握を時間をかけ行なっている。事業所でのアセスメントを十分に行い、必要なケア提供としている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	管理者の方針で、食事・入浴以外は、日々提供できる支援を行う事や、ご希望をかなえられる体制とし、出来る限り継続を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きなおしゃれ等について、ご家族へもお願いし、ご用意している。パーマや毛染め、お化粧品・ネイル等の対応も、外出や事業所内での対応を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	小規模・GHとも手作りのメニュー作成時より、ご利用者の嗜好把握に努め、可能な範囲で食事等の提供を行なっている。調理や準備、買い物等、出来る限り参加して頂けている。	好みの献立を聞き、時には食材の買い物、調理、準備と利用者の得意領域や持ち味を發揮し参加されている。食事は職員と共にとり和やかに会話が交わされている。バックに小さな音で唱歌が流れている。テレビはつけていない。飲み物は5種類以上のメニューから選択できる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	小規模・GHとも、食事・水分摂取量の把握を、シート等活用する事で実施。栄養バランスとしては、手作りのメニュー作成であるが、高齢者として必要なカロリー・栄養素の接種が出来るように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、毎食後実施。ブラッシング介助必要な方については、ケア実施。小規模では、通いのみ利用者にも、食後の口腔ケア実施。必要時、歯科受診の依頼をしたり、歯科往診もお願いしている。		

京都府 グループホーム ケアサポートセンター千本今出川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや観察を行う事で、失禁がへったり、おむつの使用が減るケースも生まれてきている。逆に、ケアの創意工夫を行っても、失禁やおむつの使用頻度が高くなる方もおられる。	バイタル・水分摂取・排泄パターンの24時間記録を基に支援している。トイレでの排泄を基本に布パンツ、パットを当てる程度に改善したことに家族も喜んでいる。トイレ誘導、リハビリパンツにパットで過している人は現在1名程度であり、排泄自立に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	GHでは、食材や運動、水分摂取の安定等で、下剤服薬なくても排便が出来ている方が増えている。反面、小規模では、服薬管理や食事のバランス不良も多く、排便に支障が出ている方もあり。今後、必要な助言等を考慮していく。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、職員数の問題等で、日中の対応。汗をかかれる等状態を考慮し、週3日以上の入浴が行えるようにしている。入浴ケアの基本は、楽しく入浴して頂く事としている。	入浴は介助態勢上、日中対応となり、週3回以上を確保している。入浴剤を準備し、ゆったりと話しなど交わせる入浴時のゆとりを大事にしている。浴槽は個浴用が2台あり内1台はリフトが備えられているが現在使用している人はいない。入浴を拒否する利用者も現段階ではない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用時は、日中可能な範囲での活動支援を行い、夜間安眠に努めている。途中覚醒された方にも、傾聴等のコミュニケーションを行い、再入眠をサポートしている。寝具・寝間着・お部屋のメンテナンス等、常に配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師よりの処方や、必要なお薬の説明を受け、事業所での服薬管理実施。通いの方にも、お薬情報等を頂いている。HSや不穏時のお薬は、必要ない場合も考慮し、医師からの指示を受ける等している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	高齢者になり、出来る事が少なくなっている中、手続き記憶を活かすケアや、できる事を増やす支援、役割を持って頂く事を、支援の基本としています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩等外出支援は、日常的に実施。冬季でも、短時間でも行うようにしている。事業よりのドライブ、食事等の外出レク、家族への同行依頼等も行っている。	普段は、近隣のお寺等に散歩に出かけている。かつては西陣織の織機の音が聞こえていた地域で古い街並みを懐かしく思い出す利用者もある。外食や喫茶店、千本通りに買い物に出かけたり、土日は、時にはドライブで四季折々の自然探訪に出かけている。	

京都府 グループホーム ケアサポートセンター千本今出川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小規模では、本人・ご家族の管理をお願いしている。管理できない方への、権利擁護や成年後見への支援も行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙等の支援は、可能な範囲でいつも実施している。字・文章を書かれることも、大きな意味で生活リハ支援として、サポートしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔第1に、配置や装飾等、ご利用者といっしょに取り組んでいる。季節を感じて頂ける事、生活を楽しんで頂く事等、多くを支援していきたい思いで取り組んでいます。	グループホーム入口に家族の要望により、職員の写真と名前を掲示している。室内はゆとりがあり、リビングダイニング形式のレイアウトになっている。西側の窓からは中庭が見下ろせる。窓は2重カーテンで日射しが調節でき、室内は暖色系の落ち着いた照明が使われている。壁に桜の花びらが、ところどころ散らされ、利用者の笑顔や会話と相まって、ほのぼのとした雰囲気を醸し出している。室内は湿度等管理がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小規模・GHとも、仲良しの方が過ごテーブル等がある。職員が、自然な状況で関係調整に入ることにより、和んだ空間となっています。笑顔多い時間が、事業所の特徴です。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用前より、本人・家族とご相談し、馴染みの家具や、家族の写真等のしつらえをお願いしています。事業所職員も、一緒になり行う事を基本としています。	各居室には表札がかけられ私用と共用との区分が意識できる。居室内は畳敷き仕様で利用者はベッド・布団を好みで選べる。室内にドレッサー・テレビ・机・鏡台を持ち込んでいる人、位牌を持参している人もある。面会が多いため、写真や季節に合わせた衣服が持ち込まれている。昼間、居室で過ごす人は少なく、洗濯干しやたたみ、調理、掃除などに取り組み、談笑して過ごす人の多いのも当ホームの特徴である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お部屋・トイレ等に関しては、時間をかけた説明、目印の明示等を行なっている。まずは、職員が気づき、「〇〇ですか」と、自然に言葉かけし、安心して頂ける生活を目指しています。		